

## 職業能力開発系

E会場 1日目 10:45-12:00

E-1

10:45-11:00

### 技能五輪・若年者ものづくり大会を活用した人材育成について

－ 目的意識やモチベーションに及ぼす効果の一考察 －

○本間 義章\*1

学生のものづくりに対する意識・意欲向上を目的に、その努力目標を与える取り組みのひとつとして、“技能五輪全国大会(工場電気設備職種)”及び“若年者ものづくり競技大会(ロボットソフト組込み職種)”への出場を継続している。その取り組みや大会出場の体感が、先輩から後輩へ伝承される際に、進路選択時の選択職種や資格取得といった目的意識やモチベーションに及ぼす効果についての考察を行ったものである。



所属：\*1 岩手県立産業技術短期大学校 水沢校 生産技術科

E-2

11:00-11:15

### 技能五輪選手の引退後の実態調査

○武雄 靖\*1 小塚 高史\*1 荒木 邦成\*1

技能五輪全国大会は、国内最高峰の技能や技術を有する若い選手たちが、その技を競い合う大会で、公的機関が主催するこの大会に出場した元選手たちは、国が育てた技能者ともいえる。しかし実際には、そのほとんどが一般企業に所属しており、彼らの技能や技術が、社外で活用されることはあまりない。そこで、元選手の動向と意識調査を行ない、その現状を明らかにすることにした。そして、この結果をもとに、元選手たちを、今後の人材育成に広く活用するためのヒントを探った。



所属：\*1 ものつくり大学 技能工芸学部情報メカトロニクス学科

## アフターコロナの新しい授業形態の模索

○酒井 則男\*<sup>1</sup> 五味 健二\*<sup>1</sup>

コロナ禍のなかで、ビデオ教材ならではのよさと教育への効果的な使い方がみえてきた。そこで、2022年度は完全対面実験に戻ったため、対面授業内でビデオ教材を効果的に使えないか検討した。例えば、予習教材をビデオにするのは目新しくないが、学生に考えさせる内容を盛り込み、その内容を対面授業当日に発表させる仕掛けを作るなど、対面授業と動画教育を合成させ双方の利点を引き出す工夫をした「新しい対面授業構築」を紹介する。

	従来の対面授業	新しい対面授業	主なポイント
授業前	教科書で予習	教科書 + <b>【ビデオ】</b> で予習 0. はじめに 1.1 理論(前半) 1.2 理論(後半)	ビデオを活用した予習の工夫 ・確認問題を入れる ・考えさせる内容を盛り込む ⇒予習の「質」向上を図る
授業中	0. はじめに 1.1 理論(前半) 1.2 理論(後半) 2. 実験(準備) 3. 実験(測定) 4. 実験(結果) 5. 解析 6. 考察 7. まとめ	1 確認問題テスト 2 実験(準備、測定) 3 実験(結果、解析) 4 考察 5 まとめ	確認問題は成績に反映 実験結果の整理、解析は、Excelを活用 事前に考えてきた内容を発表させ、グループで考えさせる
授業後	レポート採点	レポート採点 採点結果をもとに対面指導	レポート採点後に対面によるレポート作成の指導を行う

所 属：\*1 東京電機大学 工学部 機械工学科

## 大学による地域社会連携活動としての日本語・英語版観光案内制作プロジェクト —大学生の社会人基礎力向上を目指したコロナ禍における取組み—

○望月 肇\*<sup>1</sup>

大学による地域社会連携活動の一環として、大阪産業大学国際学部国際学科 望月ゼミが取り組んだ日本語・英語版観光案内制作プロジェクトについて報告する。大学が所在する大東市、岡山県瀬戸内市観光協会などと連携し、既存の観光案内マップの英語翻訳版制作や、学生が取材した施設に関する日本語・英語版の観光案内制作に取り組んだ。コロナ禍による困難を乗り越えてプロジェクトを完遂し、学生達は社会人基礎力を向上させることができた。



所 属：\*1 大阪産業大学 国際学部国際学科

DX化に対応した新たな職業訓練指導員の育成と検討  
— 全国・全指導員を対象としたオンライン研修の実施と成果 —

○原 圭吾\*1

社会全体としてデジタル化の波は避けて通ることはできず、特にビジネスを進める上で「デジタルを知らない」ということは通用しなくなっている。特に「仕事」の最前線に立つ職業訓練指導員は、デジタルを正しく理解することが必須となった。そこで昨年度は「第4次産業革命対応基礎研修」の計画について報告した。本報はその実施結果を示し、DX化への対応について検討を行う。



所 属：\*1 職業能力開発総合大学校 能力開発応用系

## 職業能力開発系

E会場 2日目 10:45-12:00

E-6

10:45-11:00

### 大学の就職活動時期前のキャリア教育プログラム設計・開発に掛かる 英語による授業実践紹介

○三浦（新免） 玲\*<sup>1</sup> 高宮 幸代\*<sup>2</sup> 合田 美子\*<sup>1</sup>

大学のキャリア支援では、就職活動のみならず人生全体にフォーカスを当てた取り組みが必要である。学生たちが動機づけされ、主体的にキャリア選択を行うための学習活動を継続する行動が起こせるようになることを目指した、3回シリーズ化キャリア教育プログラムの日本語版と英語版を開発している。本研究では、英語での授業実践時と日本語での授業実践時の取り組みにおける同異点を述べると共に、今後の課題を検討する。

#### Agenda of the first class

1. Introduction
2. "Let's show your 'strengths' to people!"
3. Work
  - Session 1 (individual work) ☑ ✓done!
  - Session 2 (pair work) ☑ ✓done!
  - Session 3 (group work) ☑ You are here now!
4. Feedback & Wrap up
5. Conclusion & Announcement for the next class

All right reserved © Earth Career Lab

Shinji Mouri

所属：\*1 熊本大学教授システム学研究センター

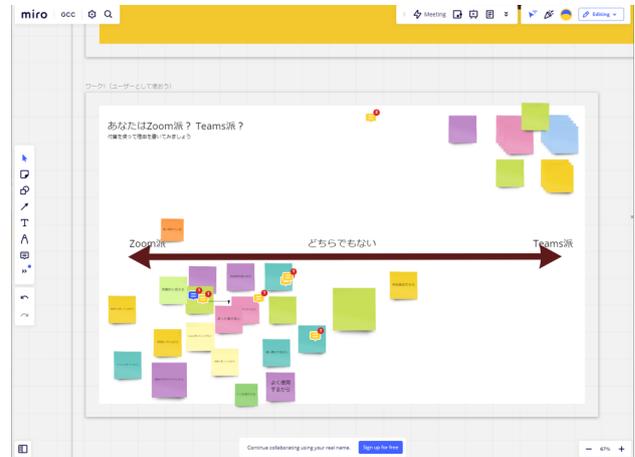
\*2 青山学院ヒューマン・イノベーション・コンサルティング

## 未経験の IT ツール活用ガイダンス研修の検討

### ー ARCS モデルによる自己調整力の支援 ー

○鈴木 真保\*1 合田 美子\*1 新目 真紀\*2

厚生労働省が発表した平成 29 年度 IT リテラシーの習得カリキュラムに関する調査研究報告では、様々な産業分野において、IoT や AI をはじめとした IT 機器の利用が当たり前となっていく中で、労働者の生産性を今後一層向上させていくためには、IT 業界に限らず、IT を活用する全産業の人材が IT リテラシーを身につける必要性が指摘されている。本研究では、IT 業界以外の労働者の多くが直面する初めて触れる IT ツールをガイダンスする際に考慮すべき点を、実践結果を踏まえて検討した。



所属：\*1 熊本大学

\*2 職業能力開発総合大学校 能力開発応用系

## 自律自走組織開発に向けた活動と評価

### ー 目的意識やモチベーションに及ぼす効果の一考察 ー

○仲田 衣美香\*1 新目 真紀\*2

林グループは、本年で 59 年を迎える。土木請負の林組を出発点として、九州地区を中心とした日本全国にて、生コン事業、物流事業、土木事業、砕石事業、ファーム事業、太陽光発電、総合商社等、新たな事業領域に進出し、林ホールディングズを中核とし、その傘下に 10 の事業を抱えるまで業容拡大している。本発表では、2017 年に従業員実施した調査結果を基に実施された意識醸成施策や制度改革の効果検証の結果を報告する。



所属：\*1 林ホールディングズ (株) ダイバーシティ推進部

\*2 職業能力開発総合大学校 能力開発応用系

仕事のリフレーミングを取り入れた技術者倫理の授業報告  
 - 事例考察における仕事のリフレーミングの効果について -

○待鳥 はる代\*1 新目 真紀\*2

技術者倫理の学習においては、学習者の倫理的判断力を養うため、実際の事故事例を考察し、事故が起きた具体的な状況において当事者たちが実際にとった行動を確認し、本来どのような行動を為すべきであったかを考察する。本研究では、関係者のとるべき行動を考察するにあたって、事前に彼らの仕事は何かを考えるリフレーミングを取り入れた授業実践を行い、考察がどのように深められたかを報告する。

心理的安全性とパフォーマンス

	業績基準が低い	業績基準が高い
心理的安全性が高い	快適ゾーン	学習及び高パフォーマンスゾーン
心理的安全性が低い	無気力ゾーン	不安ゾーン

(エイミー・C・エドモンドソン著、野津智子訳「恐れのない組織」、英治出版、2021年、p.44表1.1)

所属：\*1 職業能力開発総合大学校

\*2 職業能力開発総合大学校 能力開発応用系

コミュニケーションリテラシー育成方法の検討と効果検証  
 - IPI 分析を活用したメタ認知の支援 -

○新目 真紀\*1 石田 百合子\*1 水野 修次郎\*2

OECD が提示した Future of Education and Skills 2030 では、①新たな価値を創造する力②対立やジレンマを克服する力③責任ある行動をとる力を、社会を改革し未来を創造するための必要能力として紹介している。本研究では、これらの能力育成方法として、傾聴や共感といったコミュニケーションスキルを活用したコミュニケーションリテラシーの育成方法を検討し、教育実践と効果検証を行った。



所属：\*1 職業能力開発総合大学校 能力開発応用系

\*2 ライフデザインカウンセリング研究所所属